

NT（準絶滅危惧）

チョウ目 シジミチョウ科

カテゴリー判定基準：a), b)

リュウキュウウラボシシジミ

Pithecops corvus ryukyuensis Shirôzu, 1964

小型。沖縄島の北部および西表島に分布する日本固有亜種。成虫は、多化性でほぼ周年見られる。食餌植物はマメ科のトキワヤブハギやミソナオシなど。生息地は、照葉樹林の沢沿いの暗い場所で林道沿いの林縁などでも見られる。沖縄島では、森林伐採（11）や道路建設（24）、ダム建設（25）などの森林開発によって、森林環境が悪化し、生息地、個体数ともに大きく減少している。

| 旧レッドリストカテゴリー | | |
|--------------|-----------|-----------|
| 1991 | 2000 | 2007 |
| R | NT | NT |

日本固有亜種

執筆者：中村康弘（日本チョウ類保全協会）

チョウ目 シジミチョウ科

カテゴリー判定基準：a), b)

ヒメシジミ本州・九州亜種

Plebejus argus micrargus (Butler, 1878)

小型。本州、九州に分布し、種として国外では、朝鮮半島、中国からヨーロッパに広く分布する。成虫は、年1回、6～7月頃発生し、食餌植物はキセルアザミやオオヨモギなど幅広い。生息地は、採草地、農地、山地草原、湿地などである。半自然草原が良好な場所ではまだ個体数が多いが、観光開発や道路建設（24）などの各種開発や圃場整備（15-2）、草地の管理放棄（53）によって全国的に減少しており、九州では絶滅し、本州でも標高の低い場所を中心として生息地が急激に失われている。

| 旧レッドリストカテゴリー | | |
|--------------|-----------|-----------|
| 1991 | 2000 | 2007 |
| — | NT | NT |

日本固有亜種

執筆者：中村康弘（日本チョウ類保全協会）

チョウ目 シジミチョウ科

カテゴリー判定基準：a), b)

キマダラルリツバメ

Spindasis takanonis (Matsumura, 1906)

小型。本州（岩手県から広島県）に局地的に分布する。成虫は、年1回6～7月に発生し、幼虫はサクラ、マツ類、キリなどに巣を作るハリブトシリアゲアリに育てられる。生息地は、サクラの生える神社、公園やカシワの疎林、海岸のマツ林や農地周囲のクワ・キリである。道路建設（24）や宅地開発（23）等の各種開発のほか、農業形態の変化によるアリのつく樹木の減少などによって各地で減少している。また、過度の採集圧が見られる場所も少なくない（41）。鳥取県鳥取市の生息地が国の天然記念物に指定されているほか、その他の自治体での天然記念物にも指定されている。

| 旧レッドリストカテゴリー | | |
|--------------|-----------|-----------|
| 1991 | 2000 | 2007 |
| R | NT | NT |

執筆者：中村康弘（日本チョウ類保全協会）

チョウ目 シジミチョウ科

カテゴリー判定基準：a), b)

クロツバメシジミ九州沿岸・朝鮮半島亜種

Tongeia fischeri caudalis Bryk, 1946

小型。国内では九州（おもに、福岡県から熊本県の沿岸部、五島列島、対馬）に分布する。成虫は、多化性で、4～11月に見られ、食餌植物はベンケイソウ科のツメレンゲやタイトゴメなど。生息地は、海岸部の岩場（崖地）や砂地など。海岸部の開発（14）によって、生息地の消失が見られ、生息地が減少している。

| 旧レッドリストカテゴリー | | |
|--------------|-----------|-----------|
| 1991 | 2000 | 2007 |
| R | NT | NT |

執筆者：中村康弘（日本チョウ類保全協会）